

## 2022 年(令和 4 年)度 事業報告書

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 Earth as Mother 岐阜

## 1 事業実施の概要

特定非営利活動法人 Earth as Mother（愛知県本部）は、「全ての人と自然と共に生きる」事を基本とした「生活様式」を 6 つの理念を基に構築し、未来の子ども達に心も身体も健康に笑顔で暮らせる地球を渡していくことを目的とし設立した。

社会、人間が抱える諸問題として、環境破壊、心身破壊が有り、地球の再構築が必要であるという考えに賛同して、本部の指導の元、2013 年より市民活動として飛騨市において環境や食、農に関するセミナーの開催を行い、2015 年から神岡町山田地区の田んぼで田植えや稲刈り等の農業体験イベントを実施、2017 年から毎年、大地と食卓は繋がっていることに感謝をするイベントアーステーブルを開催。そして 2019 年、岐阜県内の土岐市（東濃エリア）、飛騨市（飛騨エリア）、美濃市（美濃エリア）を中心に活動する特定非営利活動法人 Earth as Mother 岐阜を設立し活動を継続。

第 5 期令和 4 年度の事業として、飛騨エリアでは、施設内にて地域とつながりを回復し、コミュニティ構築への一歩として、飛騨市やさしいまちづくり応援事業の補助金を活用し、アースカフェグミの木を定期的に運営。

令和 4 年度 農林水産省の消費・安全対策交付金（地域の魅力再発見食育推進事業）では、在来大豆の播種から収穫、味噌ときな粉作りと、田植えから稲刈り、伝統料理のこも豆腐作りを一連の食育食農体験として開催。

第 6 回アーステーブルでは、コロナ感染対策を行った上で、3 年ぶりの餅つき、花もち作り、火起こし体験等を企画し、食や農業に対する理解を深める活動を行う。

美濃エリアでは、ふれあい農園の提供を受け、定期的な農事ボランティア活動を行う。

イベント開催は、親子での食育食農体験として大豆播きから収穫、味噌作りを行う。また、美濃エリアでの収穫祭にあたる事業として収穫した里芋と昨年度仕込んだ味噌を使った芋煮会を開催。

美濃エリアでは初めての福祉事業では、生活困窮に関する認識とネットワーク強化となるよう困難を抱える若者・ひきこもり支援に関する交流会を開催。

東濃エリア、飛騨エリアでは生活困窮者等就労準備支援、社会的包摂推進に係る事業として、土岐市及び飛騨市より受託の生活困窮者就労準備支援事業を実施。利用者の心のケアと自立への訓練の場所として環境整備、社会復帰に向けた支援を行う。昨年度に引き続き岐阜県東濃圏域ひきこもり居場所事業および飛騨圏域ひきこもり居場所事業を受託。県の要請に応え、地域での生きづらさを抱える当事者やご家族の為の居場所整備と各開催圏域における関係諸機関との関係づくりに取り組む。

各事業の具体的な内容としては、定款の目的を達成するため、次の事業を実施。

- ①WEBシステム利用による異業種産業情報・交流を支援する事業。
- ②自然再生と環境の保全活動を支援する事業。
- ③保健、医療、老人福祉及び健康促進事業を支援する事業。
- ④資源循環型・環境保全型経済を推進するコミュニティの構築事業。
- ⑤生活困窮者等就労準備支援、社会的包摂推進に係る事業。
- ⑥食育を推進する事業。
- ⑦農作業の付帯業務・請負及び農具・土壌改良資材の製造、販売事業。
- ⑧その他この法人の目的を達成するために必要な事業。

## 2 事業の実施に関する事項

### ①WEBシステム利用による異業種産業情報・交流を支援する事業

本年度は実施せず。

### ②自然再生と環境の保全活動を支援する事業

本年度は実施せず。

### ③保健、医療、老人福祉及び健康促進事業を支援する事業

#### (ア) 事業内容・飛騨エリア

アースカフェ「グミの木」 毎週水曜日 10:00～14:30 オープン

高齢の方（独居生活の方）や地域の方々が集えるようなコミュニティスペースとしてのカフェを定期的に開き、居場所、地域とのつながりの回復、活躍の場、生きがいの場としての運営を実施。

カフェで提供するパンや野菜ジャムなどの開発、そしてカレーのレシピ開発などを行い、困難を抱える若者の訓練も兼ねて、スタッフと一緒に調理を実施。

試作用であったが、作ったのお菓子やカレーライスを、カフェを利用される高齢者の方へ提供することにより、独居生活で、普段は孤食ばかりの方が、誰かと食を共にする共食の機会を作り、困難を抱える若者の接客訓練の場としても活用。

高齢者と若者の交流の機会を増やす取り組みとして、花壇づくりを地域の花好きの女性の方たちと一緒に行う。

地域の高齢者グループの方の趣味の写真の常設展示を行う。

## (1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施日時 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の 範囲 (E) 人数	事業費の額 (単位：円)
③保健、医療、 老人福祉 及び健康 促進を支援する事業 (福祉)	アースカフェ・グミの木にて地域の方への憩いの場の提供と困難をかえる利用者との共同運営。参加型の花壇づくりなど	(A) 4月～3月 (B) グミの木 (C) 4名	(D) 地域住民、会員 (E) 195名	307,678円

## (2) 総費用 (無償ボランティア 1人)

<b>総合計</b>	<b>307,678円</b>			
(内訳) 事業費	仕入高	57,040円	車両費	10,864円
	通信運搬費	800円	消耗品費	210,476円
	燃料費	2,070円	広告宣伝費	3,302円
	諸会費	3,500円	租税公課	16,000円
	支払手数料	3,626円		

## (3) 収益

<b>総合計</b>	<b>307,974円</b>		
(内訳) 飛騨市やさしいまちづくり応援事業補助金	246,766円	参加費	61,208円

## (4) 成果と課題

主に近隣の方々が利用。高齢の婦人グループが会合にも活用するなど、一部であるが地域住民の交流の場として定着。集まったのんびり話せるような場所がこの地域には少ないため、独居の方が定期的に顔を合わせる機会の増加に貢献。作ったものをカフェ利用者の高齢者の方へ提供することで、独居生活の為、普段は孤食ばかりの方が、誰かと食を共にする共食の機会を作り、困難を抱える若者の接客訓練の場としても活用。

高齢者と若者の交流の機会を増やす取り組みとしての花壇づくりでは、花の特徴など教えてもらいながら会話をし、コミュニケーションを深める機会となる。

地域の高齢者グループの方が掲示した写真も新しくより広い場所にて展示し直す。展示される側は多数の方に見てもらえる喜びがあり、鑑賞する側は四季折々に変わる写真を見ることが出来るため、どちらにもメリットのある貴重なスペースとなる。

## 事業の様子



地域の高齢者の憩いの場として

社会とのつながりを持  
てる居場所として地域の方と若者の交流の場づくり  
花壇づくり

## ④資源循環型・環境保全型経済を推進するコミュニティの構築事業

## (イ) 事業内容・飛騨エリア

いくるばひだ隣接のマザリーアースファーム、ハウス及び田畑にて、旬の野菜の栽培を行う。  
春先から旬の野菜の栽培・収穫などを通して会の目的である半農半就を目指す。

## (1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施日時 (B)当該事業の 実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の 範囲 (E)人数	事業費の額 (単位:円)
④ 自然循環 型・環境保 全経済を推 進するコミ ュニティー 構築事業 (農事業)	マザリーアースファームにて野菜・米の収穫や世話、田畑の土づくり、片付けなど	(A) 4月から11月 (B) 飛騨エリア、マザリーアースファーム田畑 (C) 6名	(D) 地域住民、会員  (E) 120名	3,000円

## (2) 総費用 (無償ボランティア 6人)

総合計 3,000円

(内訳) 事業費 諸会費 3,000円 (岐阜の田舎へいこう R5年会費)

## (3) 収益

総合計 59,364円

(内訳) 売上高 51,594円 雑収益 7,770円 (R3年度保険料戻)

## (4) 成果と課題

ボランティア参加による会員の半農半就体験が日常的に定期開催できなかつたことが大きな課題。そのような中でボランティア参加を募って、ジャガイモ掘り体験、田んぼの草取りを実施。

また美濃の正会員、いくるぼときのスタッフが収穫体験などで飛騨エリアの農事の様子を見学。岐阜の田舎に行こう推進協議会のボランティアの中から、正会員となる方がみえ、翌年度の米作りを希望されたことは成果である。

## 事業の様子

		
<p>岐阜の田舎に行こう協議会のボランティアによる草取り</p>	<p>ボランティアによるジャガイモの収穫</p>	<p>東濃・美濃エリア会員野菜収穫</p>

## (ウ) 事業内容・美濃エリア

正会員のメンバーとその子供たちを中心に、大豆の播種を行う。大豆は、美濃地方（御嵩町あたり）の土着品種である「中鉄砲（ちゅうでっぽう）」を購入。一部、昨年収穫した「中鉄砲」を播種。昨年度に引き続き、当会副理事長の雲英頭一より農業指導を受けながら播種作業を実践。

## (1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施日時 (B)当該事業の 実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の 範囲 (E)人数	事業費の額 (単位：円)
④資源循環型・環境保全経済を推進するコミュニティ構築事業 (食農イベント)	大豆蒔きと有機循環自然農法の学習	(A)6月4日 (B)美濃エリア、和紙の里わくわくファーム「ふれあい農園」 (C)5名	(D)会員、地域住民 (E)33名 (大人15名、子供18名)	3,140円

## (2) 総費用 (無償ボランティア 5人)

総合計	3,140 円			
(内訳) 事業費	仕入高	2,180 円	賃借料	960 円

## (3) 収益

総合計 0 円

## (4) 成果と課題

2年目の大豆播種作業だったため昨年よりも作業準備及び作業説明をスムーズに進行。事前告知においては、地元の小学校(牧谷小学校)、保育園(牧谷保育園、下牧保育園)の全児童及び園児に配布した成果もあって、理事や正会員とその家族をはじめ38名(子ども含む)の参加者となり、当初予定の30名を上回る参加人数となる。その中には、「ふれあい農園」を管理する美濃市役所職員や、地元の市議会議員2名にも参加を促した事で、活動の現状や今後について理解を深めてもらう。作業に関しては、参加者の都合に合わせて、午前1回と午後2回の合計3回に分けて作業を行う。各作業時間は1時間ほどだったが、小さい子ども連れが多かったのでちょうど良い時間となる。作業の終わりには、子ども達にポストイットに感想を書いてもらう。

反省点としては、鳩除け用の紐が足りなくなってしまう、途中で購入に走る事になったため、紐を多めに用意しておく必要がある。

また、作業開始の前に、アースアズマザーの活動説明をより詳しく行なう必要がある。参加者への理解がより深められるためにも、次回からはパンフレットはじめ説明資料を用意する。

更に、作業の終わりには、子ども達の感想だけでなく大人にも一人ひとり感想を述べてもらう事で、参加者の理解を深めてもらうと同時に、今後の活動への参考意見も集める事が出来た。

## 事業の様子



## ⑤生活困窮者等就労準備支援、社会的包摂推進に係る事業

## (エ) 事業内容・美濃エリア

生活困窮に関する認識とネットワークを強化し、美濃市内における生活困窮者の居場所づくりや就労準備及び就労支援の具体的活動へ繋げる第一歩とする事を目的に本事業を実施。

第一部として、岐阜県精神保健福祉センター主査の村上麻己子氏による『ひきこもりの理解と支援』と題して基調講演を行う。第二部として、アースアズマザー本部より愛知県の事例発表、アースアズマザー岐阜の飛騨エリアと美濃エリアの事例発表を行う。第三部としてパネルディスカッションにより参加者も交えて意見交換を行う。

### (1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施日時 (B)当該事業の 実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の 範囲 (E)人数	事業費の額 (単位：円)
⑤生活困窮者等就労準備支援、社会的包摂推進に係る事業(その他)	生活困窮者の自立支援、困難を抱える若者、引きこもり支援活動に対する啓発活動、市民参加の交流会開催。	(A)9月16日 (B)美濃市健康文化交流センター (C)8名	(D)会員、関係機関、地域住民 (E)18名	80,369円

### (2) 総費用 (無償ボランティア 8人)

<b>総合計</b>	<b>80,369円</b>			
(内訳) 事業費	手当	15,000円	諸謝金	30,000円
	印刷製本費	7,517円	通信運搬費	1,480円
	消耗品費	14,109円	賃借料	9,060円
	保険料	1,000円	雑費	2,203円

### (3) 収益

<b>総合計</b>	<b>60,000円</b>	
(内訳)	補助金	60,000円 (美濃市補助金)

### (4) 成果と課題

本事業は美濃エリアではじめての福祉事業として開催。

事前告知においては、チラシの配布だけでなく、美濃市(福祉子ども課、産業課)、美濃市社会福祉協議会、民生委員、青少年育成推進委員、福祉関係者など直接声掛けを行なう事で、事前参加予定者では定員の30名に達していたものの当日の欠席者もあり最終的には26名の参加。

当日の交流会では、参加者からも積極的な意見や質問があり、特に美濃市福祉子ども課とはその後具体的な打ち合わせや予算案提出につながり、本事業の目的(美濃市内における生活困窮者の居場所づくりや就労準備及び就労支援の具体的な活動へ繋げる第一歩とする事)を達成。

反省点としては、途中でタイムスケジュールが押してしまい、パネルディスカッションの時間が短くなった。今後は、リハーサルの段階で、各自の時間配分も予め確認する必要がある。また、チラシの作成が遅くなり、事前告知の期間が約1か月しかなかった。

また、本事業では、美濃市の「地域の絆づくり事業」を活用し、事業費を補填。来年度以降も美濃市の補助事業の活用も事前に計画に盛り込み、美濃市との連携を深め、かつ福祉事業の活動の拡大に繋げる。

## 事業の様子



## (オ) 事業内容・東濃エリア

「土岐市就労準備支援事業」および「土岐市地域とつながる居場所事業」

生活困窮者自立支援制度に基づき、経済的に困窮し最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある者が、困窮状態から早期に脱却することを支援するため、本人の状況に応じて居場所利用または必要に応じ就労準備支援を行う。社会との関りに不安がある、他の人とコミュニケーションがうまくとれないなど個々の課題に対し、日常生活自立、社会生活自立、就労自立に向けた訓練を実施。社会的基礎能力を養い、就労自立へ向けた支援や就労機会を提供。

### ・実績

土岐生活・就労準備支援センター 社会的居場所「いくるば」

開設日：令和4年4月1日～令和5年3月31日

### ・参加者

就労準備支援： 延べ利用回数 0回（男子 0名、女性 0名） 実人数 0名

地域でつながる居場所：延べ利用回数 269回（男子 7名、女性 1名） 実人数 8名

開設日（通年）242日

## (1) 開催日及び講師等

事業名 （定款に記載した事業）	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施日時 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	事業費の額 （単位：円）
--------------------	----------	--	------------------------	-----------------

⑤生活困窮者等就労準備支援、社会的包摂推進に係る事業(生活困窮者)	「生活困窮者自立支援」 「土岐生活・就労準備支援センター 社会的居場所 いくるば」 ひきこもり及び生活に困難を抱える方に就労体験等を行い自立への就労準備支援および居場所事業を実施	(A) 通年 利用者に 応じ随時 (B) 土岐生活・就労準備支援センター・社会的居場所い くるばとき (C) 4 名	(D) 土岐市および関係機関からの相談者、利用者 (E) 8 名	就労準備支援 5,671,722 円 居場所 2,859,220 円
-----------------------------------	---	--	-------------------------------------	---

## (2) 総費用

## (就労準備支援)

総合計 5,671,722 円

(内訳) 人件費 3,660,150 円

事業費	業務指導費	657,333 円	印刷製本費	873 円
	旅費交通費	41,848 円	通信運搬費	322 円
	消耗品費	19,196 円	教材費	8,978 円
	地代家賃	490,660 円	賃借料	133 円
	広告宣伝費	6,411 円	保険料	18,115 円
	研修費	2,513 円	支払手数料	10,976 円
管理費	福利厚生費	2,546 円	通信運搬費	85,691 円
	印刷製本費	1,193 円	水道光熱費	136,699 円
	消耗品費	36,469 円	租税公課	227,772 円
	減価償却費	45,980 円	法人住民税	24,000 円
	支払手数	193,859 円	雑費	5 円

## (地域とつながる居場所)

総合計 2,859,220 円

(内訳) 人件費 1,803,267 円

事業費	業務指導費	328,667 円	印刷製本費	437 円
	旅費交通費	20,925 円	通信運搬費	161 円
	消耗品費	9,598 円	教材費	4,489 円
	地代家賃	245,330 円	賃借料	67 円
	広告宣伝費	3,206 円	保険料	9,057 円
	研修費	1,257 円	支払手数料	5,489 円
管理費	福利厚生費	1,273 円	通信運搬費	42,846 円

印刷製本費	597 円	水道光熱費	68,350 円
消耗品費	18,234 円	租税公課	113,661 円
減価償却費	22,990 円	法人住民税	12,000 円
支払手数	147,319 円		

**(3) 収益**

総合計 9,000,007 円

(内訳) 事業収益 土岐市委託料 6,000,000 円(就労準備支援) 預金利息 7 円  
土岐市委託料 3,000,000 円(居場所)

**(4) 成果と課題**

就労準備支援および居場所事業について、年間のスケジュールと実績目標をもとに活動。コロナ禍において、利用者の減少や社会資源の活用等が出来ず。その中においても、社会学講座や社会見学、農事体験等を利用者の課題に沿って行う。会社見学で自分の目で確かめることによって、働く意欲へと展望を抱き就労へと繋がったケースも有る。

居場所をより知ってもらうために、積極的に市内の公民館や居宅介護支援センター、包括支援センターなどにチラシを配布し、定例会などに参加し説明。

今後も市自立相談支援担当、関係機関との連携を強化し、より一層地域に根付いた支援を継続する。

**事業の様子****(カ) 事業内容・東濃エリア**

「岐阜県東濃圏域ひきこもり居場所事業」

ひきこもりに悩む当事者や家族の方々が、誰にも相談できず地域社会から孤立してしまう状況の中で、社会とのつながりを回復するために安心して過ごせる場所や、自ら役割を感じる機会が必要であることから、安心感や共感性を大切にした居場所を設置。当事者の孤立を防ぎ社会とのつながりの回復につなげる。

**・実施内容**

フリースペース、悩み相談、傾聴、ゆるやかなコミュニケーション、読書、ゲームなど。  
関係機関との情報交換、共有等。

## ・実施回数

恵那エリア（木ポイント） 12回  
 土岐エリア（土岐市文化プラザ） 18回 合計 30回開催

・参加者 延べ人数 当事者 26名（男子 22名、女性 4名） 実人数 6名

延べ人数 相談者 5名（男子 0名、女性 5名） 実人数 5名

開催日数 30回

## (1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施日時 (B)当該事業の 実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者 の範囲 (E)人数	事業費の額 (単位：円)
⑤生活困窮者 等就労準備 支援、社会 的包摂推進 に係る事業 (生活困窮 者)	東濃圏域ひきこもりの 居場所事業（岐阜県ひき こもり地域支援センタ ー）当事者や家族の相 談、交流、社会参加の場 所となるよう支援する。	(A)月2回～3回 (B)土岐市及び恵那 市の会場 (C)6名	(D)ひきこもり 当事者、家族 (E)31名	907,933円

## (2) 総費用

総合計 907,933円

(内訳) 人件費 441,190円

事業費	印刷製本費	100円	旅費交通費	244,159円
	通信運搬費	2,240円	消耗品費	6,670円
	賃借料	96,640円	広告宣伝費	13,355円
	支払手数料	2,200円		
管理費	通信運搬費	120円	租税公課	75,339円
	支払利息	25,920円		

## (3) 収益

総合計 907,933円

(内訳) 事業収益 岐阜県委託料 907,933円

## (4) 成果と課題

昨年度と比較し、参加者が増加した。特に土岐エリアが増加した。継続しての参加者があり、本人達にとっての居場所として定着。恵那エリアは、参加者数は伸びなかった。会場までの交通

の便も有り、次年度、会場選定を検討。

### 事業の様子



### (キ) 事業内容・飛騨エリア

「飛騨市就労準備支援事業」

飛騨市より委託事業。直ちに就労することが困難で、就労準備支援が必要とされ利用を希望される対象者に対し就労準備支援のプログラムを作成。対象者の希望を聞き、必要な場合は関係機関とも連携を取りながら、生活自立、社会自立、就労自立を目指して支援を実施。

#### ・実績

飛騨市就労準備支援事業所「いくるば・ひだ」

開設日：令和4年4月1日～令和5年3月31日

一般企業就職 1名 障がい者就労移行支援へ 1名

#### ・参加者

就労準備支援：延べ利用回数 341回（男子 4名、女性 3名） 実人数 7名

### (1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	事業費の額 (単位：円)
⑤生活困窮者等就労準備支援、社会的包摂推進に係る事業（生活困窮者）	飛騨市より受託する生活困窮者就労準備支援事業実施。	(A) 通年 (B) いくるば・ひだ (C) 4名	(D) 飛騨市より受付する生活困窮者 (E) 7名	6,600,007円

## (2) 総費用

総合計	6,600,007 円			
(内訳) 人件費	2,984,930 円			
事業費	旅費交通費	27,950 円	車両費	145,578 円
	消耗品費	239,570 円	教材費	480 円
	地代家賃	1,826,733 円	賃借料	240,000 円
	広告宣伝費	10,290 円	研修費	3,770 円
	支払手数料	23,120 円		
管理費	通信運搬費	166,884 円	水道光熱費	374,514 円
	保険料	10,460 円	租税公課	322,269 円
	支払手数料	187,459 円	法人住民税	36,000 円

## (3) 収益

総合計	6,600,007 円			
(内訳) 事業収益	飛騨市委託料	6,530,000 円	預金利息	7 円
	寄附金 (車両)	70,000 円		

## (4) 成果と課題

2年間いくばへ通所しながら、公立高校の通信制に通っていた利用者の方が、今年度、一般企業へ就職。短時間のアルバイトしかしたことがなく、通所当初は人とのコミュニケーションに不安があり、自信を持てなかったが、通いながら成功体験を増やし、自己肯定感が少しづつ持てるようになり、就職後も休まず勤務出来、定着支援のため定期的に面談を実施。

厨房が整ったことにより、調理訓練や共食(週1回)、カフェの接客等の訓練メニューが充実し、それぞれの利用者の段階に応じた支援を実施。畑に収穫に行き、その作物を使っての調理を実施することで、食に対する興味、関心をもってもらえるような取組みや、家での食事内容の悪い方には、自分で作った料理を持ち帰ってもらうなど対応。

不登校やひきこもりの状態が長く、人との関りやコミュニケーションに不安を感じている方々の場合、次の段階に進むことや、就労に向かう意欲が起きず、利用期間が長期化することが多くなっている。来年度はさらにプログラムの工夫をし、訓練内容を充実させる。

## 事業の様子



## (ク) 事業内容・飛騨エリア

「岐阜県飛騨圏域ひきこもり居場所事業」

岐阜県精神保健福祉センターからの委託事業。飛騨圏域（高山市、飛騨市）にて実施。生きづらさを抱える人や、ひきこもりの当事者及び家族が地域社会から孤立する状況を防ぎ、社会とのつながりを回復するために安心感や共感性を大切にした居場所を設置。フリートークや会話の糸口となるような創作活動等を行い、家族に対しては、当事者との関り方についての助言や情報提供を行う。

## ・実施内容

フリースペース、傾聴、グループトーク、簡単な制作、パズル・ゲームなど。  
関係機関との情報交換、共有等。

## ・実施回数

高山市（こくふ交流センター） 15回

飛騨市（神岡船津座・いくるば） 15回

合計 30回開催

・参加者 延べ人数 当事者 92名（男子 66名、女性 26名） 実人数 20名

延べ人数 家族 14名（男子 1名、女性 13名） 実人数 8名

開催日数 30回

## (1) 開催日及び講師等

事業名 （定款に記載した事業）	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施日時 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	事業費の額 （単位：円）
--------------------	----------	--	------------------------	-----------------

⑤生活困窮者等就労準備支援、社会的包摂推進に係る事業（生活困窮者）	岐阜県飛騨圏域ひきこもり居場所事業の開催。 岐阜県精神保健福祉センターからの委託事業。	(A)月2～3回 (B)高山市及び飛騨市の会場 (C)4名	(D)地域住民 (E)106名	828,837円
-----------------------------------	--	-------------------------------------	--------------------	----------

## (2) 総費用

総合計 828,837円

(内訳) 人件費 634,195円

事業費	旅費交通費	18,689円	消耗品費	11,518円
	教材費	3,070円	賃借料	79,530円
	広告宣伝費	4,760円	支払手数料	2,580円
管理費	通信運搬費	2,086円	租税公課	72,409円

## (3) 収益

総合計 828,837円

(内訳) 岐阜県委託料 828,837円

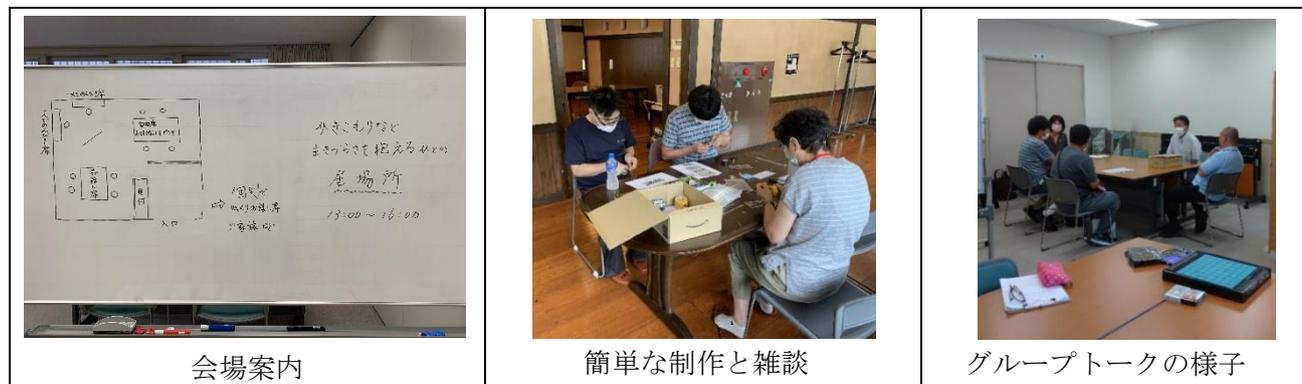
## (4) 成果と課題

昨年度に続き、2年目の居場所開設。徐々に利用者が増え、個別での会話や、数名でのグループトークをし、新聞紙や折り紙を使った簡単な制作をしながら、会話をして過ごす。

主に、何らかの福祉サービスを受けながらも生きづらさを抱えながら、居場所を探している方が利用。そのような方は毎回参加されることが多くリピート率が高かった。

家族の場合は、スタッフとの会話を希望され、傾聴やひきこもりに関する情報の提供を行う。ひきこもっていて居場所を必要とされる方に、情報が届くような方法や仕組みを検討していくことが課題。

## 事業の様子



## ⑥食育を推進する事業

## (ケ) 事業内容・飛騨エリア

農林水産省「消費・安全対策交付金」岐阜県「地域の魅力再発見食育推進事業」

飛騨在来種大豆「はとほろし」の種まきとポット播種持ち帰り育苗、草取り、大豆の刈り取り、大豆で味噌作り・きな粉作り体験を通して、畑で実る大豆から味噌やきな粉などの日本人が昔から食してきた食べ物ができる過程を体験。

## (1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施日時 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	事業費の額 (単位：円)
⑥食育を推進する事業 (食育推進)	令和4年度農林水産省「消費・安全対策交付金」、岐阜県「地域の魅力再発見食育推進事業」生き物いっぱいの畑で飛騨在来種の大豆『はとほろし』種まき	(A) 5月28日 (B) 飛騨エリア、マザリーアースファーム畑 (C) 6名	(D) 会員、地域住民 (E) 31名	50,755円
⑥食育を推進する事業 (食育推進)	令和4年度農林水産省「消費・安全対策交付金」、岐阜県「地域の魅力再発見食育推進事業」生き物いっぱいの畑で飛騨在来種の大豆『はとほろし』畑の除草	(A) 7月9日 (B) 飛騨エリア、マザリーアースファーム畑 (C) 5名	(D) 会員、地域住民 (E) 15名	30,961円
⑥食育を推進する事業 (食育推進)	令和4年度農林水産省「消費・安全対策交付金」、岐阜県「地域の魅力再発見食育推進事業」生き物いっぱいの畑で飛騨在来種の大豆『はとほろし』収穫	(A) 10月29日 (B) 飛騨エリア、マザリーアースファーム畑 (C) 7名	(D) 会員、地域住民 (E) 31名	46,788円

⑥食育を推進する事業 (食育推進)	令和 4 年度農林水産省「消費・安全対策交付金」、岐阜県「地域の魅力再発見食育推進事業」生き物いっぱい畑で収穫した飛騨在来種の大豆『はところし』から味噌・きな粉作り	(A)1月28日 (B)飛騨市古川町公民館 (C)5名	(D)会員、地域住民 (E)27名	87,560円
----------------------	--	-----------------------------------	----------------------	---------

## 5/28 大豆播種 (無償ボランティア 5人)

## (2) 総費用 50,755円

(内訳) 事業費	手当	4,400円	仕入高	10,287円
	諸謝金	15,160円	印刷製本費	1,500円
	賃借料	5,000円	広告宣伝費	4,920円
	保険料	1,488円	支払手数料	8,000円

## (3) 収益 53,000円

(内訳)	参加費	53,000円 (大人 4,500×11 3,500円×1名 子ども 19名)
------	-----	---

## 7/9 草取り (無償ボランティア 3人)

## (2) 総費用 30,961円

(内訳) 事業費	手当	10,000円	仕入高	537円
	諸謝金	10,000円	広告宣伝費	3,000円
	保険料	2,424円	支払手数料	5,000円

## (3) 収益 31,000円

(内訳)	農水補助金	31,000円
------	-------	---------

## 10/29 大豆収穫 (無償ボランティア 5人)

## (2) 総費用 46,788円

(内訳) 事業費	手当	4,400円	諸謝金	18,400円
	消耗品費	6,000円	賃借料	16,500円
	保険料	1,488円		

## (3) 収益 47,000円

(内訳)	農水補助金	36,000円	飛騨市補助金	11,000円 (飛騨市より補助)
------	-------	---------	--------	-------------------

## 1/28 味噌・きな粉作り（無償ボランティア 5人）

## (2) 総費用 87,560 円

(内訳) 事業費	手当	8,800 円	仕入高	35,074 円
	諸謝金	19,820 円	印刷製本費	2,200 円
	通信運搬費	6,900 円	消耗品費	1,182 円
	賃借料	7,800 円	保険料	1,488 円
	支払手数料	4,296 円		

## (3) 収益 32,750 円

(内訳)	飛騨市補助金	31,000 円(飛騨市より補助)
	参加費	1,750 円(1名分)

## (4) 成果と課題

5月の種まき、7月の草取り、10月の刈り取りを経て1月の味噌作りと、コロナ感染により、イベントに参加できなかった家族もいたが、約8ヶ月に渡って同じ家族の皆様と一緒に、大豆の生育を見守り、暑い夏に草取りをして収穫した大豆で味噌ときな粉作りを実施。

今年は、種まきと収穫の間の7月に草取りを行い、収穫までの大変さの一端を理解した感想もあった。大豆の収穫については、参加者を予めグループ分けし、それぞれのグループにスタッフが2名つき、事前に大豆の刈り取り方法のレクチャーと注意点の確認。参加者と一体になって5畝の畑、全ての大豆を収穫し更にブルーシートに乗せて乾燥するハウスに運ぶ。全員で一つのことに一生懸命に取り組むことを子供も大人も関係なく楽しみながらできたことは、子供にとって思い出になる記憶となった（後日、参加した子供から「楽しかった」と手紙が届く）。

また、7月の草取りには地域の梅の木から実を頂き、梅ジュースを予め用意し提供し大変好評であった。このため、味噌きな粉作りでもおはぎを出してきな粉を付けて食べ、イベントで体を動かして体験し、その後に飲食があることでより充実した内容となる。

コロナ対策など含めて衛生面に注意をした上で、飲食の提供、共食の機会もあるイベントを少しずつ取り戻していく。

## 事業の様子



## (コ) 事業内容・飛騨エリア

農林水産省「消費・安全対策交付金」岐阜県「地域の魅力再発見食育推進事業」

完全無農薬栽培の稲苗を手で田植えをし、初夏に草取りを行い、稲刈り、稲架掛け、そして稲わらを活用して飛騨の伝統料理であるこも豆腐をこも作りから実施。

## (1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施日時 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の 範囲 (E) 人数	事業費の額 (単位：円)
⑥食育を推進する事業 (食育推進)	令和4年度農林水産省「消費・安全対策交付金」、岐阜県「地域の魅力再発見食育推進事業」生き物いっぱいの田んぼで田植え	(A) 6月18日 (B) 飛騨エリア、マザリーアースファーム田んぼ (C) 6名	(D) 会員、地域住民 (E) 18名	89,107円
⑥食育を推進する事業 (食育推進)	令和4年度農林水産省「消費・安全対策交付金」、岐阜県「地域の魅力再発見食育推進事業」生き物いっぱいの田んぼの草取り	(A) 7月9日 (B) 飛騨エリア、マザリーアースファーム田んぼ (C) 3名	(D) 会員、地域住民 (E) 13名	30,961円
⑥食育を推進する事業 (食育推進)	令和4年度農林水産省「消費・安全対策交付金」、岐阜県「地域の魅力再発見食育推進事業」生き物いっぱいの田んぼで稲刈り	(A) 10月1日 (B) 飛騨エリア、マザリーアースファーム田んぼ (C) 4名	(D) 会員、地域住民 (E) 19名	48,088円
⑥食育を推進する事業 (食育推進)	令和4年度農林水産省「消費・安全対策交付金」、岐阜県「地域の魅力再発見食育推進事業」こも豆腐作り	(A) 11月19日 (B) 飛騨市古川町公民館 (C) 3名	(D) 会員、地域住民 (E) 11名	26,077円

## 6/18 田植え (無償ボランティア 5人)

## (2) 総費用 89,107 円

(内訳) 事業費	手当	4,400 円	仕入高	39,159 円
	諸謝金	15,160 円	印刷製本費	900 円
	賃借料	15,000 円	保険料	1,488 円
	支払手数料	13,000 円		

## (3) 収益 89,500 円

(内訳)	農水補助金	61,000 円		
	参加費	28,500 円	(大人 4,500 円×4名	3,500 円×3名
			子ども 11名)	

## 7/9 草取り (無償ボランティア 3人)

## (2) 総費用 30,961 円

(内訳) 事業費	手当	10,000 円	仕入高	537 円
	諸謝金	10,000 円	広告宣伝費	3,000 円
	保険料	2,424 円	支払手数料	5,000 円

## (3) 収益 31,000 円

(内訳)	農水補助金	31,000 円
------	-------	----------

## 10/1 稲刈り (無償ボランティア 4人)

## (2) 総費用 48,088 円

(内訳) 事業費	諸謝金	35,600 円	消耗品費	6,000 円
	賃借料	5,000 円	保険料	1,488 円

## (3) 収益 53,000 円

(内訳)	農水補助金	53,000 円
------	-------	----------

## 11/19 こも豆腐作り (無償ボランティア 2人)

## (2) 総費用 26,077 円

(内訳) 事業費	手当	4,400 円	仕入高	2,179 円
	諸謝金	15,220 円	印刷製本費	900 円
	通信運搬費	690 円	賃借料	1,200 円
	保険料	1,488 円		

## (3) 収益 27,000 円

(内訳)	飛騨市補助金	21,000 円	(飛騨市より補助)
	参加費	6,000 円	(2,000 円×3名)

#### (4) 成果と課題

6月の田植え、7月の草取り、10月の稲刈りを経て11月のこも豆腐作りを開催。コロナ感染によりイベントに参加できなかった家族もいたが、春から晩秋にかけて同じ参加家族と一緒に、稲の生育を見守る。暑い夏に田んぼに入って草取り、稲刈りを行い稲わらで飛騨の伝統料理であるこも豆腐をこも作りから体験。

田んぼが初めての家族も見え、市の農林部勤務の家族も参加、米作りを田植えから体験。大豆コースと同日に草取りを実施し、無農薬栽培の田んぼでの草の生え方を見て、除草剤を使用しない田んぼでの草取りの大変さも実感。稲刈りでは小さな子供も刃物である鎌を使い稲を刈り取り、稲架に掛けるところまでを体験。バインダーの刈り取りもスタッフと共に体験。

稲刈り自体は子供たちと向き合って稲の刈り取り方をしっかりと教えることが不十分な面があり、親子で参加されたスタッフから「もう少ししっかりと伝えて欲しい」と要望がでる。(これはその後実施した大豆の刈り取りで反省として活かした。)

こも豆腐用の稲わらの準備が想像以上に手間と時間がかかり、いくるばの利用者にも手伝ってもらい進める。こも豆腐作りではこもを編んで作る為に会場の和室も借りて実施。その後そのこもを使って豆腐を包んで煮る作業は調理室で行う。使い勝手は良かった。

和室から調理室に戻った後も、子供が和室に遊びに戻ってしまい、管理者の目が無いところで遊び、障子などに傷を付けてしまった可能性もあり、今後の進め方の改善点とする。

#### 事業の様子



#### (サ) 事業内容・飛騨エリア

「第6回アーステーブル（大地の食卓）」開催。

6回目を数える地域住民と食べ物を育む大地が食卓と繋がっていることを思い出し、収穫や地球に感謝するイベントを開催。コロナ禍ではあったが、感染対策を行った上で、餅つき、花もち作り、火起こし体験、山中和紙にお絵描き野菜スタンプ、英語で歌おうなど、新しい会員の活躍の場や美濃エリアの会員に火起こしの講師を依頼し、岐阜支部内での協力も得ながら、子供たちの笑顔溢れるイベントとなる。

## (1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施日時 (B)当該事業の 実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の 範囲 (E)人数	事業費の額 (単位：円)
⑥食育を推進 する事業 (食育イベン ト)	第 6 回アーステーブル 〈Earth Table・大地の 食卓〉イベント開催 餅つき、花もち作り、火 起こし、いくるバンド英 語で合唱。和紙の野菜で お絵描き	(A)11月5日 (B)飛騨エリア、 いくるばひだ (C)14名	(D)地域住民、会員 (E)43名	26,018円

## (2) 総費用 (無償ボランティア 14人)

総合計 20,018円

(内訳) 事業費	仕入高	9,280円	消耗品費	8,938円
	保険料	1,700円	支払手数料	100円

## (3) 収益

総合計 42,000円

(内訳)	参加費	42,000円
------	-----	---------

(一般 1,500円×16名 会員 1,000円×14名 子ども 500円×8名)

## (4) 成果と課題

約2ヶ月前からスタッフでミーティングを行い、役割分担と準備をしてイベントに臨む。就労準備支援事業を卒業して就職した2名と利用者1名もボランティアとして加わり14名のボランティアにて運営し、食べること、火起こしや花もち作り、そして英語で歌う事などを楽しみながら体験。

反省点として、全体的には、イベントを全て把握する人が不在で、皆して作り上げた半面、お客様の誘導やスタッフの配置に偏りが出たりする場面があった。また、当日は駐車スペースが会場隣接ではなく誘導が必要だったが、的確に行うことが出来ず来場者が滞る場面もあり、時間を要した。プログラムの中で餅つきと豚汁提供、火起こし、花もち作りまでがタイトなスケジュールの中でやり遂げた部分もあったが、その後の英語で歌おうの場面では、協力体制の面で課題が残る。

## 事業の様子



火起こし

花もち作り

英語で歌おう

## (シ) 事業内容・美濃エリア

本年度栽培した里芋と、昨年度の事業で作った味噌を使って「芋煮会」を実施。

芋煮は調理に時間がかかるため事前に仕込んでおき、当日は温めるだけの状態にしておいた。参加者は里芋の収穫体験をし、火おこし体験によって起こした火で収穫した里芋をホイル焼きにした。また、参加者におにぎりを持参してもらい、昨年仕込んだ味噌で作った味噌だれを塗った焼きおにぎりを食した。

## (1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	事業費の額 (単位：円)
⑥食育を推進する事業 (食育イベント)	収穫した里芋と昨年作った味噌で芋煮会	(A) 11月26日 (B) 美濃エリア、和紙の里わくわくファーム「ふれあい農園」「わくわくパーベキューサイト」 (C) 6名	(D) 会員、地域住民 (E) 29名	14,100円

## (2) 総費用 (無償ボランティア 6人)

総合計 14,100円

(内訳) 事業費	仕入高	5,493円	消耗品費	3,907円
	賃借料	2,200円	保険料	2,500円

## (3) 収益

総合計 15,500 円  
 (内訳) 参加費 15,500 円 (一般 500 円×25 名、会員 300 円×10 名)

## (4) 成果と課題

本事業は美濃エリアではじめての収穫祭にあたる事業となる。

事前告知においては、6 月の大豆蒔きの時と同様、地元の小学校（牧谷小学校）、保育園（牧谷保育園、下牧保育園）の全児童及び園児に配布した成果もあって、理事や正会員とその家族をはじめ 35 名の参加者となり、当初予定の 30 名を上回る参加人数となる。また、「ふれあい農園」を管理する美濃市の産業課にも事前に情報共有した事で、本事業の様子を見てもらう。

今回は、女性正会員のメンバーが中心となって準備を進め、当日スムーズに芋煮が提供できるよう前日に芋煮を仕込むなど、非常に段取りよく進められた。また、火起こし体験については、正会員の得意分野を活かす事ができただけでなく子供たちも非常に興味を持ってくれた。

全体としては、自分たちで収穫した里芋と昨年仕込んだ味噌を使った料理を食べる事で、子供だけでなく親も含めて食育を体験。

反省点としては、鉄板による味噌焼きおにぎりは事前に調理実践ができていなかった為、鉄板におにぎりが焼き付いてしまうなど想定外の事態も起きた。来年は、予め内容をしっかり詰めて準備を行う。

また、9 月の福祉事業同様、来年度は美濃市の補助事業を活用する事で、より内容の濃い事業にする事も検討。

## 事業の様子



## (ス) 事業内容・美濃エリア

本年度栽培した大豆（※）を使用して、味噌づくりを実施。

はじめに味噌の栄養などに関する話と、昨年仕込んだ味噌の試食を行う。女性正会員が講師役を務め、正会員と一般参加者が親子で味噌づくりを実践。最後に、味噌づくりで使用した糀で仕込んだ甘酒で茶話会も行う。

（※）美濃エリアは猿害が原因で大豆が収穫できなかった為、飛騨エリアにて収穫された大豆を使用。

## (1) 開催日及び講師等

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施日時 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者 の範囲 (E) 人数	事業費の額 (単位：円)
⑥食育を推進 する事業 (食育イベン ト)	収穫した大豆を使用 した味噌づくり	(A) 1 月 28 日 (B) 美濃エリア、和紙の 里わくわくファーム 「創造交流館」 (C) 5 名	(D) 会員、地域 住民 (E) 30 名	31,770 円

## (2) 総費用 (無償ボランティア 5 人)

総合計	31,770 円		
(内訳) 事業費	仕入高	24,998 円	消耗品費 382 円
	賃借料	3,140 円	広告宣伝費 1,500 円
	保険料	1,750 円	

## (3) 収益

総合計	45,000 円		
(内訳)	参加費	45,000 円	(1,500 円×30 名)

## (4) 成果と課題

本事業は美濃エリアでは昨年に続く継続事業となる。

事前告知においては、地元の小学校(牧谷小学校)、保育園(牧谷保育園、下牧保育園)の全児童及び園児にチラシを配布し、正会員自ら声をかけて参加を募った事により、牧谷地区だけでなく美濃市内の他地区や、美濃市外からの参加者もあった。

昨年度は飛騨エリア雲英副理事長が講師を務めたが、本年度は、女性正会員が講師役を務めて開催。ただし、1週間前に予め雲英副理事長に直接味噌づくりの指導を受ける事によってスムーズに行なうことができた。また、一般参加者には事前に大豆を配布し、各自で大豆の浸水と煮大豆まで準備して当日持参。

味噌づくりの前に、味噌の栄養などに関する話を行ない、参加者に味噌に関する予備知識を深める。次に、昨年仕込んだ味噌の味見を行ない、手作り味噌への期待値が膨らむ。

味噌づくりは、事前に用意したエクセルシートを活用し、大豆の重さから必要となる糶と塩の分量をスムーズに計算できるよう工夫。また、昨年より参加人数が多かったため、調理実習室だけでなく隣にある食品加工室も使用する事で対応。作業自体は、昨年味噌づくりを経験した正会員が参加者をサポートする事で時間通りに作業を終える。

最後に、味噌づくりで使用した糀で仕込んだ甘酒を飲みながら茶話会を行ない、参加者から感想を聞いたり意見交換を行う。また、参加者とLINEグループを作り、今後の味噌の発酵状況の共有や不明点を聞きやすくするよう工夫した。

改善点としては、猿の被害により大豆を収穫する事ができず、飛騨エリアで収穫した大豆を使用する事となる。その為、来年度は美濃市と一緒に電柵対応などの猿被害対策をしっかりと行い、自分たちで育てた大豆で味噌づくりができるよう工夫が必要。

### 事業の様子



糀を塩を混ぜる

大豆を潰す

大豆を玉にする

集合写真

### ⑦農作業の付帯業務・請負及び農具・土壌改良資材の製造、販売事業

○本年度は実施せず。

### ⑧その他この法人の目的を達成するために必要な事業

○本年度は実施せず。

### ⑨管理事業

(セ) 事業内容

事務局管理費

#### (1) 総費用

総合計 85,278 円

(内訳) 管理費	印刷製本費	5,200 円	通信運搬費	1,634 円
	消耗品費	31,268 円	賃借料	930 円
	広告宣伝費	14,026 円	保険料	23,510 円
	諸会費	5,000 円	租税公課	3,710 円

#### (2) 収益

総合計 263,093 円

(内訳)	受取入会金	3,000 円	正会員受取会費	110,000 円
	企業受取会費	30,000 円	賛助会員受取会費	24,000 円
	寄附金収入	96,090 円	受取利息	3 円

## 総会費

(1)総費用	14,445 円			
(内訳) 管理費	印刷製本費	12,825 円	通信運搬費	1,620 円

(2)収益 0 円

### ○総会〈第4回通常総会〉

- ・開催日時：令和4年6月12日（土）13：00～14：30
- ・開催場所：いくるば・ひだ 岐阜県飛騨市神岡町山田 2358 番地 2

#### ・議題

- 第一号議案 令和3年度 事業報告、決算報告について
- 第二号議案 令和3年度 監査報告について
- 第三号議案 寄附金活用報告について
- 第四号議案 定款変更（案）について
- 第五号議案 令和4年度 事業計画（案）、活動予算（案）について
- 第六号議案 令和4年度 理事・監事（案）について
- 第七号議案 令和4年度 運営組織・人事（案）について
- 第八号議案 その他議案について

### ○理事会

#### 第1回理事会

- ・開催日時：令和4年5月15日（水）10：00～13：00
- ・開催場所：Earth as Mother 岐阜 本部事務所 岐阜県土岐市土岐口中町3丁目57番地

#### ・審議事項

##### 議案 総会に向けての議事検討

- 第一号議案 令和3年度 事業報告（案）について
- 第二号議案 令和3年度 収支決算報告（案）について
- 第三号議案 令和4年度 事業計画（案）について
- 第四号議案 令和4年度 活動予算（案）について
- 第五号議案 定款変更（案）について 第4章 第13条 役員及び職員の定数の変更
- 第六号議案 令和4年度 理事・監事（案）について
- 第七号議案 令和4年度 運営組織・人事（案）について
- 第八号議案 その他議案について

#### 第1回臨時理事会

- ・開催日時：令和4年6月9日（木）19：45～19：55
- ・開催場所：リモート理事会 各事業所およびネット環境のある所在の場

・ 審議事項

第一号議案 令和 4 年度 運営資金の借り入れ (案) について

第二号議案 その他議案について

第 2 回理事会

・ 開催日時：令和 5 年 3 月 21 日 (土) 14 : 30 ~ 19 : 00

・ 開催場所：美濃市中央公民館 岐阜県美濃市上条 9 5 番地 2

・ 審議事項

第一号議案 総会に向けての令和 4 年度事業報告 (案)、決算報告 (案) についての審議

第二号議案 総会に向けての令和 5 年度事業計画 (案)、活動予算 (案) についての審議

第三号議案 定款変更 (飛騨エリア、美濃エリアの住所登記) についての審議

第四号議案 給与等、賃金規定作成についての審議

第五号議案 その他

(2) その他の事業

※本年度は実施せず。